様式 C-7-2

自己評価報告書

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2007～2010
課題番号：１９３３０１２０
研究課題名（和文）　文化多元主義と社会的正義に関する研究

研究課題名（英文）　Multiculturalism and Social Justice

研究代表者
ポール　デュムシェル（PAUL　DUMOUCHEL）
立命館大学・大学院先端総合学術研究科・教授
研究者番号：80388107

研究代表者の専門分野：政治哲学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：国際社会・エスニシティ

１．研究計画の概要
本研究課題は、二種類の社会政策とその根底にある規範理論との関係を体系的に研究し解明することを目的としている。一般的な福祉・福利厚生政策は社会的正義の理論のうえに構築されている一方で、文化多元主義政策、文化的理論、少数派の権利などによっても支えられている。

その根底にある仮説は、一般的に社会的正義と文化多元主義の対立を個人の権利とグループの権利の対立として捉えるものであり、この論理には欠陥がある。

非常にしばしば社会的正義や文化多元主義の問題が表れる、政治的な戦略や目的といったものをもっと考慮したアプローチ方法をとるべきであり、社会的正義と文化多元主義のどちらが戦略的な配慮を元に、それらの政治的戦略を決定していくのかということは、未解決の問題であり、本研究で中心となる課題である。

このことと関連して、なぜこの論議がごく最近に限られて起こってきているのかということを考える必要がある。文化多元主義が政治や理論の中で中心を占めることとなったのはここ約４０年の間であるのに対し、社会的正義は少なくとも第一次世界大戦後には政治の議論の中心にあった。

２．研究の進捗状況
当初の計画ではフィールドワークと理論計画を同程度の割合で進行させる予定であったが、現時点では全体として理論的側面からの研究のほうが進展している状況であり、この側面からの成果については最終的に発行予定の書籍にも多く盛り込まれる予定である。

平成２１年度には社会的正義と文化多元主義を主題とした比較的大規模な国際カンファレンス『絆と境目：正義と文化に関する新しいパースペクティブ』を開催した。平成２２年度はその成果をまとめ書籍として発行することための準備が主な作業となる。

カンファレンスの参加者からは、成果としての書籍の発行にあたり、単なる講演集ではなく、講演の論文をさらに成果を発展させた論文を寄稿してもらえることとなり、準備が進んでいる。具体的には２０１０年７月までにテキストのリライトが完了し、更にその文章を参加者間で相互に読み合わせを行ったうえで、１２月には最終的な原稿を完成させる予定である。

同時に、まだ解決すべき基礎的な再検討課題についても、何らかのガイドラインを示せるよう作業を進める。

最終成果は一貫して論理的でかつオリジナリティのある論文となり、この４年間の研究成果を示せるようなものとなるはずである。

また、本研究プロジェクトのメンバーは、これまでの研究や論文についても再検討を行い、日本語と英語両方で書籍として刊行する計画である。

このように、本プロジェクトはこれまでの成果を集約し出版するという最終段階にあるといえる。

３．現在までの達成度
③やや遅れている。
（理由）
研究分担者の一人が私的理由のために研究

資格を失い、研究組織から外れたこと、また、分担者である立命館大学の後藤玲子教授が事故のため約半年近く休職せざるをえなかったこと、さらに分担者の立命館大学西川長夫教授が定年退職となり常勤の研究者ではなくなったことなどから当初の予定通りすべての研究計画を進めることができているとは言い難い状況である。このような状況ではあるが、何とか当初予定していた大規模な国際カンファレンスは無事開催することができた。21 年度に発行する予定であった書籍「文化多元主義と社会的正義(Multiculturalism and Social Justice)」については 22 年度の発行にずれ込むこととなったが、本書籍には研究組織のメンバーの過去の論文の寄稿に加えて、若手研究者の論文も含まれている。

４．今後の研究の推進方策

上記のような状況ではあるが、平成２２年度には主要な成果をまとめた３冊の書籍の刊行を予定しており、当初予定していた研究目的と成果を研究期間内に達成することは可能だと思われる。先にも述べたように国際カンファレンスの成果をまとめた重要や書籍の刊行作業を進めており、これにより正義／社会政策に影響を及ぼしているさまざまな理論の複雑な関係を解明することに貢献できると考えている。

５．　代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

①Paul Dumouchel, “Inside Out: Political Violence in the Age of Globalization, *Contagion,* 15/16, 2009, pp.173-184.

〔学会発表〕（計 19 件）

①Paul Dumouchel, “La Violence: Catastrophe de la Raison” in *Katastrophé tra ordine culturale et ordine naturale*, Università degli Studi di Messina, Centro Europeo di Studi su Mito e Simbolo, 7 April 2009, Italy

② Paul Dumouchel, “Indifférence et ressentiment”, Risentimento, perdono e riconcilazione , Università degli Studidi Bergamo, 17 November 2009, Italy

③後藤玲子、「報いでも、償いでもなく、必要だから――公的扶助の＜無条件性＞と＜十分性＞を支援する――」、第 7 回福祉社会学会、2009 年 6 月 8 日、日本福祉大学

④後藤玲子、「公的扶助制度に関する法と経済学――『福祉への権利』の妥当性と実効性について」、「法と経済学の法哲学的総合研究」公開研究会　2009 年 10 月 3 日、東京工業大学

〔図書〕（計 13 件）

① Paul Dumouchel, Nationalisme et Multiculturalisme en Asie, Paris: L’Harmattan, 2010, 237p

② Reiko Gotoh & Paul Dumouchel, Against Injustice The New Economics of Amartya Sen, Cambridge University Press, 2009, 317p.

〔その他〕